

今期業況天気図

今期業況天気図

期間：2019年7月～9月（売上・採算・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」。推移をみると、2019年7月～9月期の総合業況DIは▲23と、前期▲21から2ポイントの悪化。全産業では1四半期前に全業種が「小雨」に悪化して以来、引き続き全業種の「小雨」が続いている。製造業、建設業、飲食業・サービス業は小幅の悪化。小売業・卸売業はマイナスの状態が続いている。

米中・日韓の貿易摩擦の激化とそれに伴う取引先の生産調整の影響により前々期・前期と大きく落ち込んだ製造業は、今期も更なる悪化が進んだ。小売業やサービス業で期待された、消費税前の駆け込み需要もほとんどプラスの効果が見られなかった。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲17	▲27	▲7	▲24	▲13
採算	▲23	▲27	▲14	▲28	▲23
仕入単価	▲36	▲44	▲48	▲35	▲28
販売単価	▲6	▲5	▲5	▲6	▲7
従業員	25	18	41	17	25
資金繰り	▲15	▲17	▲10	▲22	▲14
今期業況 (総合判断)	▲23	▲27	▲15	▲30	▲21
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴 DI値 31以上 	晴れ DI値 30～11 	薄曇り DI値 10～▲10 	小雨 DI値 ▲11～▲30 	雨 DI値 ▲31以下 	

参考)今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 2018.10月～ 12月期					
2四半期前 2019.1月～ 3月期					
1四半期前 2019.4月～ 6月期					
今期 2019.7月～ 9月期					

次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図

2019年10月～12月(売上・採算・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の天気図は「小雨」。

産業別にみると、製造業、建設業、飲食業・サービス業では「小雨」が続き、小売業・卸売業は「雨」になり、全業種で悲観的な見通し。

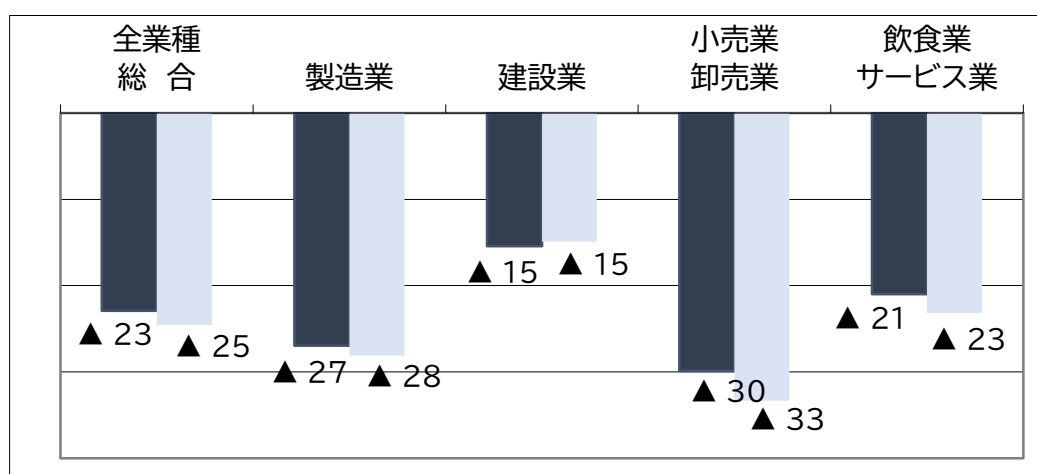
今期と次期を産業別に比較すると、建設業(今期・次期)は今期と同じく低位で横ばいの現状維持。過去3期に渡り急激に悪化した製造業(今期・次期)は、ようやく景況が下げ止まる見込みだが、回復には至らない模様である。飲食・サービス業(今期・次期)は若干の悪化が見込まれ、小売業・卸売業(今期・次期)も景況が好転せず「雨」に落ち込む可能性がある。

建設業を除く全ての業界で20以上のマイナスが続き、厳しい状況が続くことが懸念される。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 19	▲ 24	▲ 17	▲ 27	▲ 15
採算	▲ 23	▲ 25	▲ 13	▲ 33	▲ 23
仕入単価	▲ 37	▲ 36	▲ 39	▲ 42	▲ 34
販売単価	▲ 6	▲ 6	▲ 5	▲ 5	▲ 7
従業員	25	17	39	20	27
資金繰り	▲ 17	▲ 18	▲ 12	▲ 25	▲ 16
次期業況 (総合判断)	▲ 25	▲ 28	▲ 15	▲ 33	▲ 23
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
 DI値 31以上	 DI値 30～11	 DI値 10～▲10	 DI値 ▲11～▲30	 DI値 ▲31以下	

参考) 今期と次期の業況DI



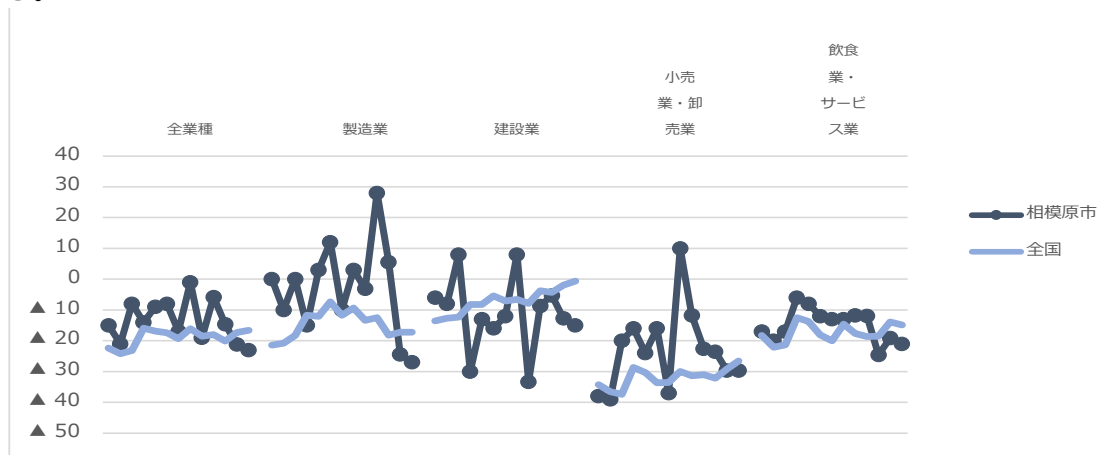
業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、前期▲21から▲23(前期差2ポイント減)と、小幅の悪化が続く。

産業別にみると、小売業・卸売業は▲30(前期差0ポイント)で低位に留まったほか、製造業は▲27(前期差3ポイント減)、建設業は▲15(前期差2ポイント減)、飲食業・サービス業は▲21(前期差2ポイント減)と、落ち込み方は緩やかになったものの、全業種で悪化が続く。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、前期に引き続きすべての産業で全国値を下回っている。全国では景況の回復が見られる建設業および小売業・卸売業は、当市では厳しい状況が続いている。製造業では貿易戦争の影響を受けている機械・電機・輸送機器に加え、公共事業の減少などにより建設資材の製造業についても、受注量の減少が深刻化している。建設業では、公共工事は減少しているが民間需要は一部で伸びており、人手不足のための受注できない事業者が増えている。

製造業と建設業は、全国的には回復の兆しがみられるため、当市との景況の差が拡大している。

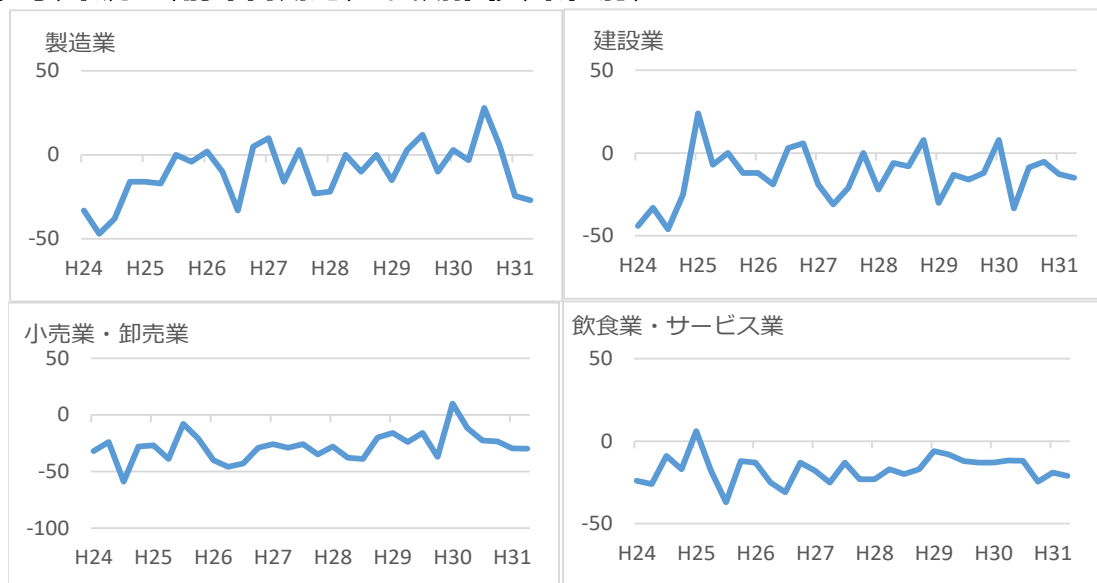


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



業況DI（特徴的なトピックス）

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

- ・受注は、車両関係大手が海外展開の実施に伴い、大幅受注減。雇用は機械加工（マシンニング、フライス、施盤等）に従事を希望する方が非常に少ない。【金属、樹脂部品の切削加工、プローブ関連部品の加工および装置の組立】
- ・業務用放送機器製造業は今がピークであり、数年先までは安定的市場であるが、人件費、管理費が上がり販売価格に転嫁できていない。【電子機器製造（テレビ局向けスタジオ放送設備、機器開発、製造）】
- ・公共事業も減少。取引先の経費圧縮に伴う受注数の減少など全体的に景気悪化。
【印刷業】
- ・中国、韓国との関係悪化により、客先からの受発注ストップがみられる。【金属塗装】

【建設業】

- ・オリンピックに向けて材料が入らない。人手不足。【電気工事業】
- ・公共は悪くなる一方だが、民間発注（受注）は増加しています。【造園業】
- ・仕事はありますが対応できず、全体として現状のまま【一般建設業】
- ・消費税アップの駆け込みなし。【住宅建設】
- ・大型の工事を受注したため、資金繰りが厳しい。【建築、土木その他建設工事の請負、設計、管理】

【小売業・卸売業】

- ・2019 冬から 2020 春にかけて仕入単価の上昇＋消費税アップに伴う新価格を設定したいが、消費の冷え込みからどのように設定するかが悩みどころ。【学校用品小売販売】
- ・IT 補助金による需要。PC、マイグレによる売上増。【OA 機器販売、IT ネットワークの営業、サービス】
- ・ネットショッピングの利用者増。キャッシュレスによるポイント還元や大手チェーン店によるポイント割引への移行。【化粧品販売】
- ・産地（特に千葉県）が台風により年末にかけて出荷量の減少が心配される。【切り花、園芸品の小売】

【飲食業・サービス業】

- ・レンタカー部門は、気候による変動が大きく、梅雨、台風の影響を受け、夏の最大需要期にかかわらず低迷した。【レンタカー、カーリース】

-
- ・家賃の不払い、遅れがひどい。空き室が多くなかなか入居者がみつからない。【店舗、アパートの賃貸】
 - ・休日等が増えるとその日の分の売り上げがなくなり、売上と利益が減少するが給与は減らすことができず、その分は会社か役員が負担している。零細企業にとって相当厳しい。大企業、中小企業と同じくくりになされて大変困っている。【鍵、錠】
 - ・売上は順調に増えているが、荷主の動向に不安があります。【一般貨物運送事業、部品等の輸送】

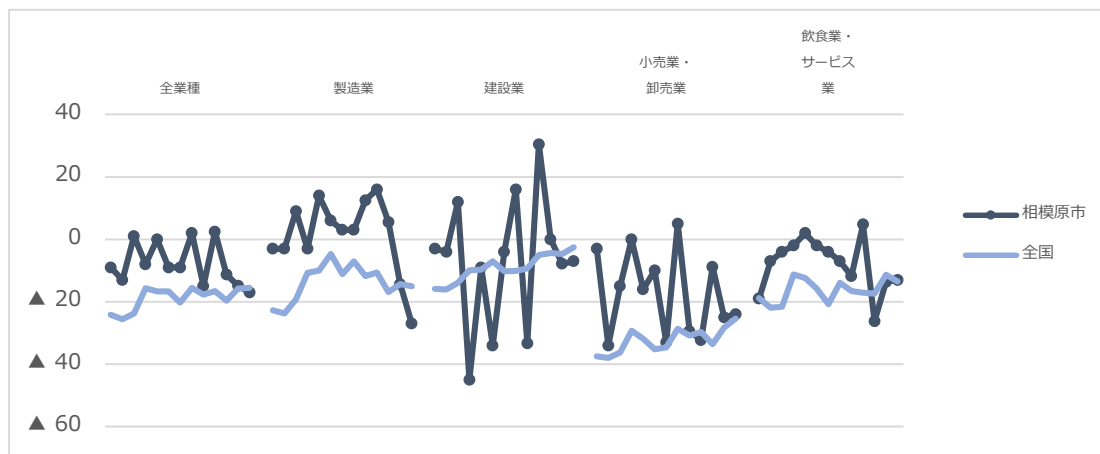
売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、前期▲15 から▲17(前期差2ポイント減)と前期に続いてやや減少した。

産業別にみると、建設業は▲7(前期差1ポイント増)、小売業・卸売業で▲24(前期差1ポイント増)、飲食サービス業は▲13(前期差1ポイント増)と、落ち込みはひと段落し改善の兆しが見られる。しかし、製造業は▲27(前期差13ポイント減)と前期に続き大幅な悪化である。精密機械・部品加工・電機部品を中心に受注減を訴える企業が非常に増えている。消費増税による駆け込み需要は期待されたほど発生せず、建設業の一部を除いてほとんど見られない。むしろ、サービス業・飲食業を中心に、消費税増税のマイナスの影響がこれから出てくるのではないかと不安を訴える事業者が多い。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、急激に悪化した本市製造業が全国値を大きく下回っている。東日本大震災直後の平成24年に近い低水準に落ち込み、特に製造業者が厳しい状況に置かれていることが分かる。一方、サービス業の一部では売上増加を報告する企業もあり、景況の回復の兆しがみられる。

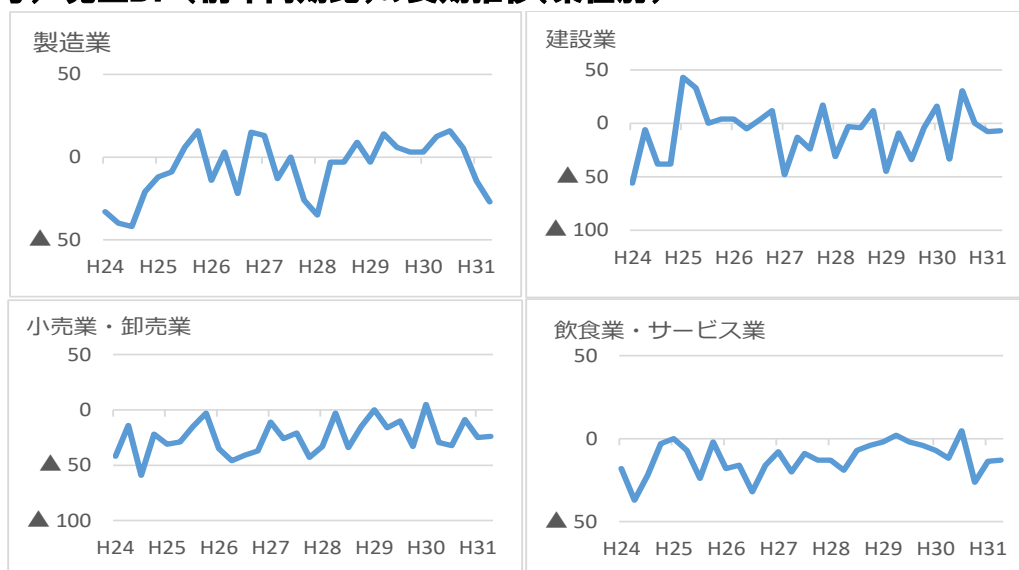
(2016年7-9月期～2019年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



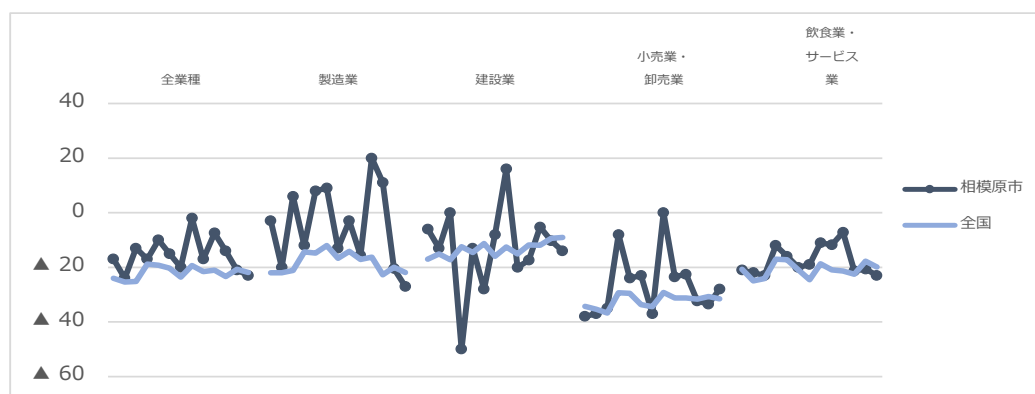
採算DIの推移

採算DI(前年同期比)の推移

全産業の採算DIは、前期▲21 から▲23(前期差 2 ポイント減)と、やや減少した。

産業別にみると、製造業が▲27(前期差6ポイント減)、建設業は▲14(前期差 4 ポイント減)と前期に続いて悪化が進んだ。一方、飲食業・サービス業は▲23(前期差 2 ポイント減)と横ばいを示し、小売業・卸売業は▲28(前期差 5 ポイント増)で景況の悪化は底を打ったよう見える。ITサービスや運送業などのサービス業や小売業の一部には業績が好調な企業も見られる。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、回復の兆しが見える小売業・卸売業を除いて、全国値を下回っている。

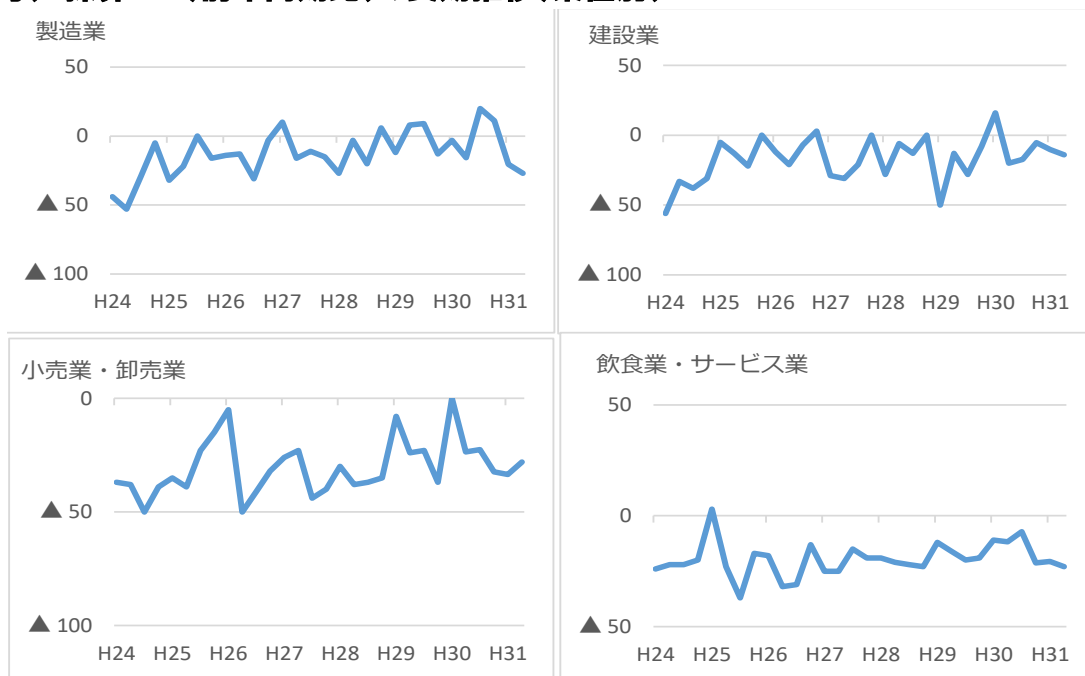


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

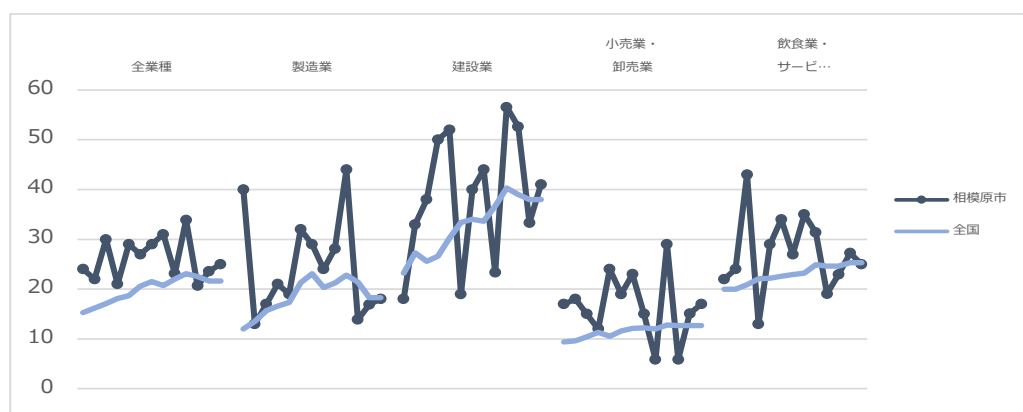


従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、前期 24 から 25(前期差 1 ポイント増)でほぼ変化がなかった。

産業別にみると、飲食業・サービス業は 25(前期差 2 ポイント減)、製造業は 18(前期差 1 ポイント増)、小売業・卸売業は 17(前期差 2 ポイント増)で前期とほぼ変わらず人手不足感は落ち着いたのに対し、建設業では 41(前期差 8 ポイント増)と、再び人手不足感が増した。人手不足の声は全産業から上がっているが、建設業やサービス業の一部(運送、介護など)では「仕事はあるのに人手が足りず受注ができない」状況が多数発生しているようである。その他の業種では受注が減退傾向にあるため、むしろ人手不足による人件費の値上がりや採用コストの上昇が問題となっている。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、小売業・卸売業、建設業が全国値を上回っている。特に建設業は全国では人手不足感がひと段落したが当市では上がっている。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

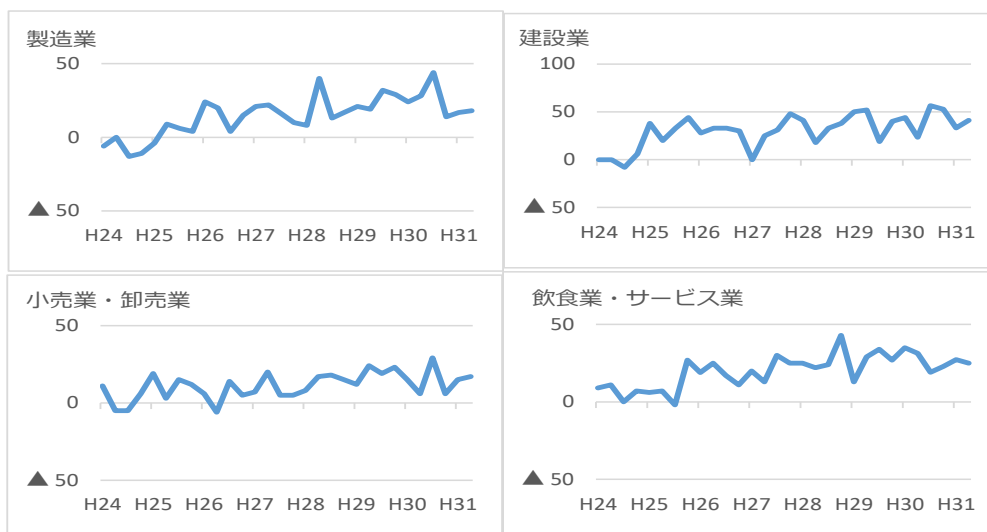
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査

※従業員DIについて、当所では「DI=不足—過剰、中小企業庁は「過剰—不足」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

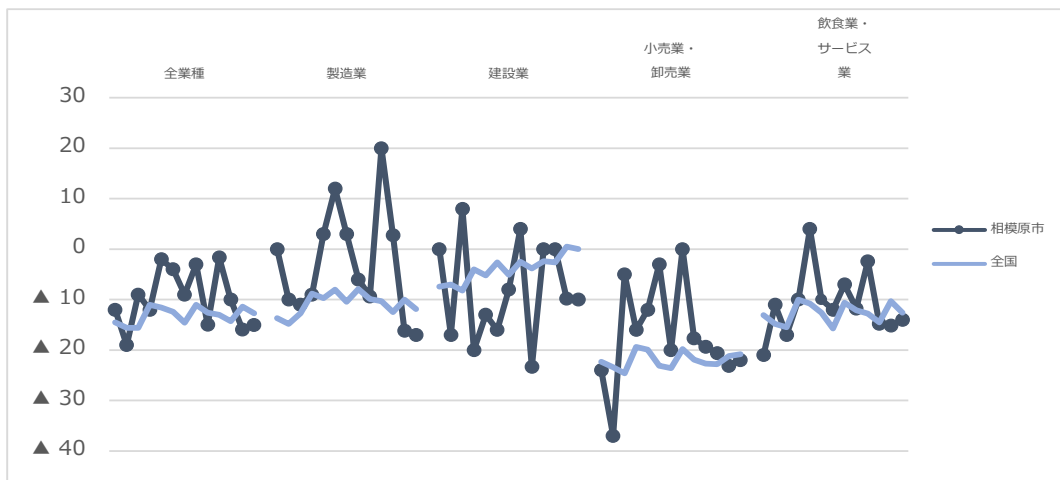


資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、前期▲16から▲15(前期差1ポイント増)で前期からほぼ横ばいであった。

産業別にみると、製造業で▲17(前期差1ポイント減)、建設業は▲10(前期差±0ポイント)と飲食業・サービス業は▲14(前期差1ポイント増)、小売業・卸売業で▲22(前期差1ポイント増)、ほぼ横ばいであった。全業種で受注量が減少傾向にある中、資金繰りの状況に大きな変化は見られないが、建設業の一部では大型受注による資金繰りの懸念が出ている。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全国でも資金繰りの変化はほぼ横ばいであるが、建設業と製造業では前期から引き続き全国よりも資金繰りの状況が悪い。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



仕入単価DIの推移

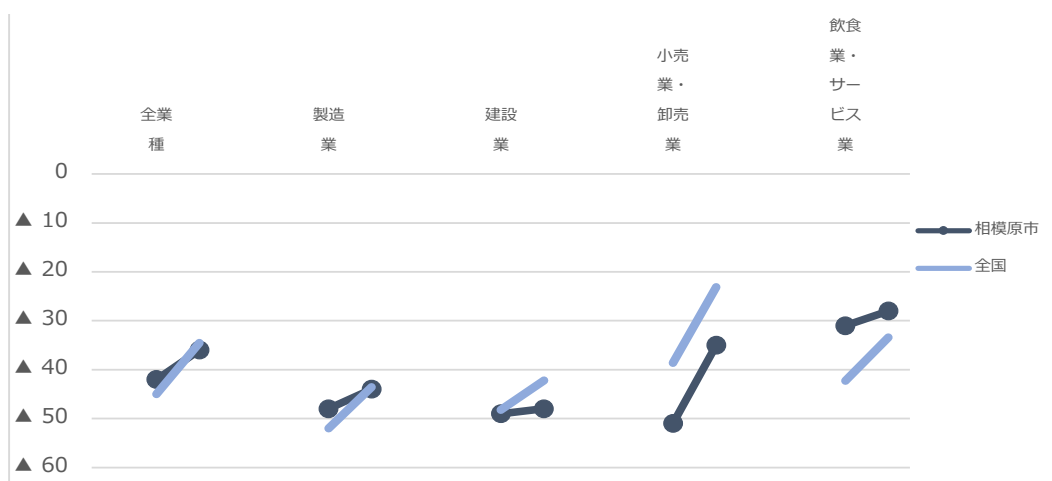
仕入単価DI(前年同期比)の推移

全産業の仕入単価DIは、前期▲42 から▲36(前期差 6 ポイント増)と、前期と比べて改善している。

産業別にみると、製造業で▲44(前期差 4 ポイント増)、建設業は▲48(前期差 1 ポイント増)と低位で安定する一方で、飲食業・サービス業は▲28(前期差 3 ポイント増加)とやや改善している。小売業・卸売業は▲35(前期差 16 ポイント増)と大幅に改善した。

7月～8月にかけて円高傾向が続き、海外からの仕入が多い企業は仕入れ単価の低減メリットが出た模様だが、全般的には、電気やプラスチック製造業を中心に仕入額の上昇を訴える声が多い。食品・花卉などの農産物については天候不順と産地の災害に伴う出荷量の減少と値上がりの影響が出ている。サービス業では燃料費の上昇が懸念されている。原材料の値上がりの販売価格への転嫁ができない企業もある。

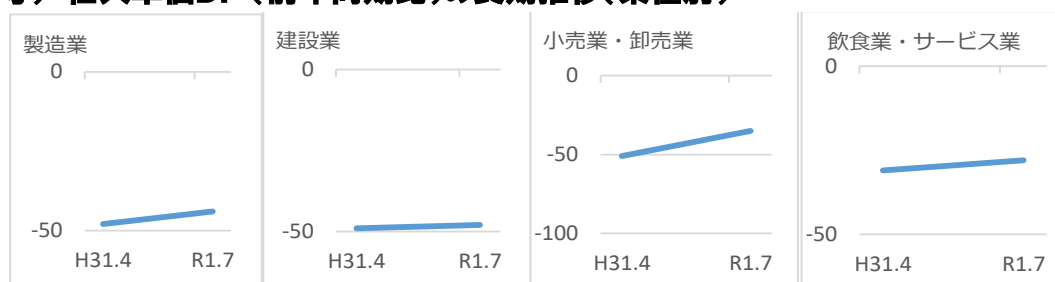
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、数値の増減は全国と同じ傾向を示しているが、数値としては、飲食業・サービス業を除いては全国よりも数値が悪い。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 仕入単価DI (前年同期比)の長期推移(業種別)



販売単価DIの推移

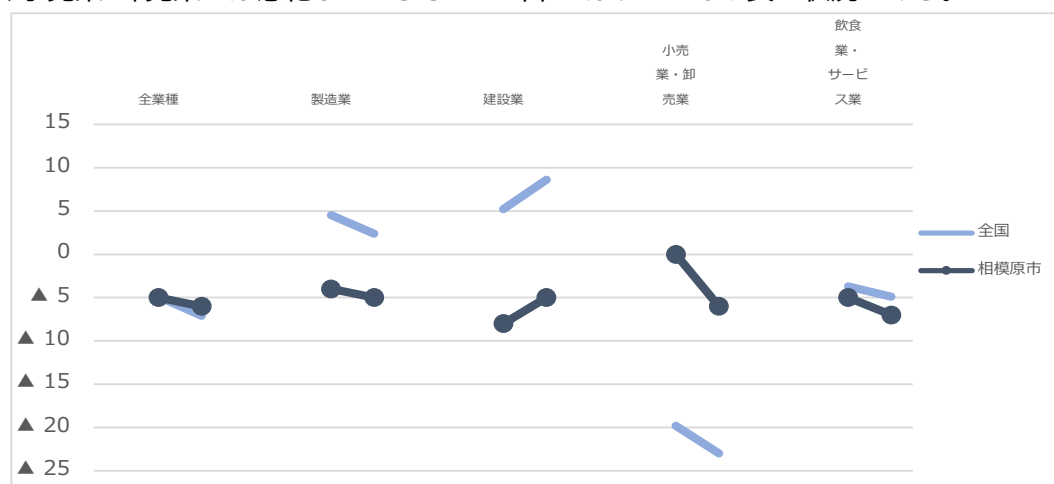
販売単価DI(前年同期比)の推移

全産業の販売単価DIは、前期▲5 から▲6(前期差 1 ポイント減)と、ほぼ横ばいであった。

産業別にみると、製造業で▲5(前期差 1 ポイント減)、飲食業・サービス業は▲7(前期差 2 ポイント減)とほぼ横ばいを示し、建設業は▲5(前期差 3 ポイント増)とやや改善した。一方、小売業・卸売業は▲6(前期差 6 ポイント減)と悪化している。

消費税増税の影響を訴える声はあまりない。消費者向けの商売である小売・サービス業を中心に競争激化による慢性的な単価下落に悩む声が多い。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業・建設業では当市のほうが低位であるが、小売業・卸売業では悪化しているものの当市のほうがかなり良い状況である。

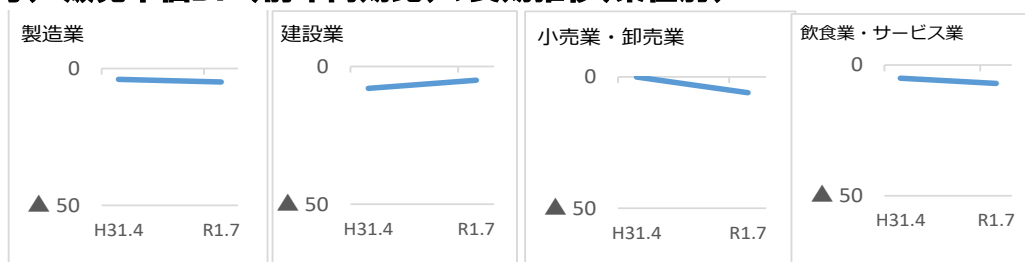


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所 LOBO/建設業 2019 年 7 月」分類の値を使用

参考) 販売単価DI (前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(2019.7~2019.9)				次期見通し(2019.10~2019.12)			
			売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サプル数	58	80	129	267	48	108	111	267
		構成比	22	30	48	▲ 27	18	40	42	▲ 24
	採算	サプル数	41	112	114	267	35	130	102	267
		構成比	15	42	43	▲ 27	13	49	38	▲ 25
	仕入単価	サプル数	4	142	121	267	4	164	99	267
		構成比	1	53	45	▲ 44	1	61	37	▲ 36
	販売単価	サプル数	26	202	39	267	21	210	36	267
		構成比	10	76	15	▲ 5	8	79	13	▲ 6
	従業員	サプル数	61	194	12	267	58	196	13	267
		構成比	23	73	4	18	22	73	5	17
建設業	売上	サプル数	18	186	63	267	18	182	67	267
		構成比	7	70	24	▲ 17	7	68	25	▲ 18
	採算	サプル数	39	117	111	267	27	138	102	267
		構成比	15	44	42	▲ 27	10	52	38	▲ 28
	仕入単価	サプル数	6	85	97	188	5	104	79	188
		構成比	3	45	52	▲ 48	3	55	42	▲ 39
	販売単価	サプル数	14	150	24	188	17	144	27	188
		構成比	7	80	13	▲ 5	9	77	14	▲ 5
	従業員	サプル数	78	110	0	188	75	111	2	188
		構成比	41	59	0	41	40	59	1	39
小売業・卸売業	売上	サプル数	16	138	34	188	13	140	35	188
		構成比	9	73	18	▲ 10	7	74	19	▲ 12
	採算	サプル数	23	113	52	188	22	116	50	188
		構成比	12	60	28	▲ 15	12	62	27	▲ 15
	仕入単価	サプル数	39	55	80	174	35	57	82	174
		構成比	22	32	46	▲ 24	20	33	47	▲ 27
	販売単価	サプル数	28	69	77	174	21	74	79	174
		構成比	16	40	44	▲ 28	12	43	45	▲ 33
	従業員	サプル数	18	77	79	174	12	77	85	174
		構成比	10	44	45	▲ 35	7	44	49	▲ 42
飲食業・サービス業	売上	サプル数	28	108	38	174	32	101	41	174
		構成比	16	62	22	▲ 6	18	58	24	▲ 5
	採算	サプル数	30	143	1	174	35	138	1	174
		構成比	17	82	1	17	20	79	1	20
	仕入単価	サプル数	12	112	50	174	7	116	51	174
		構成比	7	64	29	▲ 22	4	67	29	▲ 25
	販売単価	サプル数	20	82	72	174	17	82	75	174
		構成比	11	47	41	▲ 30	10	47	43	▲ 33
	従業員	サプル数	106	188	168	462	83	226	153	462
		構成比	23	41	36	▲ 13	18	49	33	▲ 15
全業種 総合	売上	サプル数	56	244	162	462	43	270	149	462
		構成比	12	53	35	▲ 23	9	58	32	▲ 23
	採算	サプル数	17	299	146	462	13	278	171	462
		構成比	4	65	32	▲ 28	3	60	37	▲ 34
	仕入単価	サプル数	47	335	80	462	55	319	88	462
		構成比	10	73	17	▲ 7	12	69	19	▲ 7
	販売単価	サプル数	129	319	14	462	139	310	13	462
		構成比	28	69	3	25	30	67	3	27
	従業員	サプル数	35	327	100	462	28	331	103	462
		構成比	8	71	22	▲ 14	6	72	22	▲ 16
全業種 総合	売上	サプル数	56	253	153	462	47	261	154	462
		構成比	12	55	33	▲ 21	10	56	33	▲ 23
	採算	サプル数	249	406	436	1091	199	481	411	1091
		構成比	23	37	40	▲ 17	18	44	38	▲ 19
	仕入単価	サプル数	154	529	408	1091	125	585	381	1091
		構成比	14	48	37	▲ 23	11	54	35	▲ 23
	販売単価	サプル数	45	603	443	1091	34	623	434	1091
		構成比	4	55	41	▲ 36	3	57	40	▲ 37
	従業員	サプル数	115	795	181	1091	125	774	192	1091
		構成比	11	73	17	▲ 6	11	71	18	▲ 6
全業種 総合	売上	サプル数	298	766	27	1091	307	755	29	1091
		構成比	27	70	2	25	28	69	3	25
	採算	サプル数	81	763	247	1091	66	769	256	1091
		構成比	7	70	23	▲ 15	6	70	23	▲ 17
	仕入単価	サプル数	138	565	388	1091	113	597	381	1091
		構成比	13	52	36	▲ 23	10	55	35	▲ 25

集計表(トピックス)

製造業
10月よりの消費税率10%適用による影響度を注視する必要がある。【人工大理石加工製造業】
2019年9月以降の受注が大きく悪化しています。【歯車製造、大型部品の機械加工】
9月の消費税値上がり前の駆け込み注文が多く、10月からの受注が減ると思われる。【畳、襖、障子】
BtoCが主取引のため、増税に伴う消費の落ち込みが心配。【健康食品の製造販売(玉ねぎ皮茶など)】
OA機器なので景気の良し悪しが無い。受注は昨年より30%くらい多いです。【OA機器試作品(主にプラスチック樹脂)】
すべてにおいて減少傾向。【製缶、板金】
パワハラ、働き方改革の影響で作業がやりにくい。【金属機械加工業】
ホテル関係、サービス業の引き合いが多くなってきた。【ウレタンマットレスの加工販売】
ものづくり補助金のような設備投資をしたくなるような助成金もしくは減税策がないと消費税増税後またはオリンピック需要の終了後には大きな不安を感じている。中小企業に対し、企業の安定化を図るため、内部留保をしてほしい。企業規模に応じ、非課税額を決め、不況に向けての内部留保を。【建設機械の部品製造、橋梁建設の部品製造、産業生産設備の部品製造】
印刷業の構造的不景気。【オフセット印刷業】
引き合いも多くなってきました。【産業機械設計製作】
円高になると受注されそうなものがキャンセルされる。人手不足で仕事を断っている。【興業設備などの電気工事】
下期以降の景気の下がり具合【建設機械部品、油圧シリンダー部品、自動車部品等】
海外向けが軒並み悪化(米中、日韓等)【金属機械部品加工(医療機器、自動車、工作機械等)】
外注の不足【省力化機器の設計、製作】
各顧客への納入数量が急減してきている。【角型紙管の製造】
韓国の仕事が減少で今後が不安。人数がギリギリなので雇用を考え中ですが、仕事の量の先が見えず不安。【配電盤の製作やケーブル処理】
客先の在庫調整が長引き、受注が減少したままである。【工業塗装】
客先の設備投資等により(3Dプリンター)小物品の受注減少。【プラスチック試作モデル製造】
業界の工事が減少しているため、今後同業者との価格競争が激化する。現状は人手不足だが、売り上げ減少するため、今後は過剰になる。【マンション向けベランダ手摺や門扉等】
業務用放送機器製造業は今がピークであり、数年先までは安定的市場であるが、人件費、管理費が上がり販売価格に転嫁できていない。【電子機器製造(テレビ局向けスタジオ放送設備、機器開発、製造)】
建設業でのボルト不足で工事が遅れ、当社の生産の遅れ、売り上げ減となった。【金属表面処理(塗装)】
建築工事(オリンピック以外)の好調(特殊な工法が注目を集めている)。船舶関連製品の材工が増加している。【機械機構装置設計製造販売】
原料、材料費の上昇【ポップコーン(アルミ皿型)、ポップコーン原料豆】
雇用が難しい(人が集まらない)【制御盤の製作】
雇用状況はニーズに適した新卒、中途採用に苦労している。【医療機器製造業】
雇用状態は決して楽観できないが、人材面の低落感は否めず、労働意欲に欠如する応募者が見受けられる。【輸送用機器、足回り部品製造加工】
公共事業も減少。取引先の経費圧縮に伴う受注数の減少など全体的に景気悪化。【印刷業】
工場用地不足。【化成品(ウレタンフォーム、ポリエチレンフォーム、ゴムスポンジ)加工販売】
国際関係の影響。下請け企業へのしわ寄せ。【プレス加工】
国内生産の回帰傾向を感じる。【表面処理剤の製造、水溶性防錆剤】
今はまだ目に見えての業績悪化はないが、海外情勢不安(米中や韓国)が長引くと影響が出てくる。【自動機械の設計、製作、販売】
今は単価が下がり受注が上がっているが、もうすぐ受注も減少になると思う。残業は減るのに受注も減り、給与を上げるにはどうしたらよいか。【金属製品製造、通信機器等部品、筐体等】
今まで経験したことがないくらい受注数激減。【化粧品】
最低限の注文しかない。ロットが減少。収益の減少。【発泡スチロール加工】
最低賃金のアップ、有給取得の義務化【物流機器(木製パレット等)の製造販売】
最低賃金のアップのため、収益率が著しく悪化。【プラスチック部品製造】

採用にコストをかけても人が集まらない。【広告造形物製作、特殊美術造形】
仕入単価の上昇を売り上げに反映できていない。【電子回路製造、設計】
紙製品仕入単価が上がっている。(段ボール等)【煙火用部品製造、販売業】
時代の流れ、テクノロジーの進歩がない。【電子部品、デバイス電子回路製造業】
自然災害による景気の低迷。【印刷】
自動化や稼働率向上が課題。【ネジ、ボルト】
自動車および自動車部品メーカーの引き合いが減っている。【単品、小ロットの加工部品販売(試作、治工具、部品)】
自動車業界の先行き不透明(米中貿易戦争や EU 問題等)
社会的需要の変化。将来への思案中。【輸送機運搬補助(自動車用リフト、車いす用リフト)】
若干ではあるが受注が減少傾向にある【板金加工、塗装、盤配線】
若年層の仕事への意欲の低下【精密板金加工(半導体、自動車、医療、生産設備)】
取引先の技術者不足で開発や設備設計の効率化(生産性向上)のために、各工場への分散化の流れがある。下請けとしてそれにどう対応するかが課題。【光学装置、精密機器、真空装置の設計製作】
受注、注文等の減少が大きいです。原材料の多少の上昇等。【プラスチック板、加工、プラスチック製品の追加、加工等一般】
受注が最悪。【光学ガラス部品製作】
受注の減少。人件費の上昇。【プラスチック部品組立・検査・梱包】
受注の減少【板金部品加工】
受注の状況悪化を感じる。【製缶、機械加工】
受注は、車両関係大手が海外展開の実施に伴い、大幅受注減。雇用は機械加工(マシンニング、フライス、施盤等)に従事を希望する方が非常に少ない。【金属、樹脂部品の切削加工、プローブ関連部品の加工および装置の組立】
受注額の低迷。【プラスチック金型設計製作】
受注件数の増加【コネクタの組立設備、立形インサート成形品の自動化設備】
受注減少。売り上げ減。【精密機械部品加工】
受注減少【小型トランス、変成器、スイッチングトランス】
受注状況は、主力先からの受注に下振れ懸念あり。雇用面は、入社、退職の出入りが激しい。【輸送用機械器具製造、精密板金加工】
受注量の減少【NC 旋盤切削加工、オイルレスベアリング製造】
受注量の低下【パイプ曲げ加工】
受注量減少。【精密板金加工】
従業員の高齢化。若手が募集しても来ない。設備の老朽化。【自動車部品】
従業員の平均年齢が年々上がっている所以で若い人に教えたい。【金属加工】
暑さによる受注不足【置製造】
消費税が 10%になり、ますます悪化する。【学校卒業アルバム印刷、一般印刷】
消費税増税による不透明感。【板金加工物の製造】
上期予算がないのか下期への予算申請用の見積り依頼が多い。【生産用機械器具、真空装置の製作】
上半期は前年並みを達成。下半期は例年通りと見込んでいる。【プラスチック押出成形機械(水槽、引取機、切断機)の製造】
新規受注が取りにくい。(決まりにくい)。発注側の動きが悪いことが多い。【電子機器設計、製造、販売】
新製品の販売拡大に期待している。【福祉用具の製造販売】
親会社が先行不透明で売り上げ予想ができないことから、弊社も同様に下期の売上高減少が考えられる。【溶接板金、精密板金業】
人員募集をしてもあまり集まりませんので、条件の良い企業があり、全体的には好景気なのかと感じます。【電子電気機器】
人件費が上がっている。【金属製品の製造業】
人件費の高騰による各仕入先からの値上げがこの先の収益悪化をさせる。【野菜加工】
人件費の上昇【ゴムパッキン加工】
人口減少が少しずつ影響してきている。オバーストアーの現状で顧客である小売店が新店を増やすのをやめ、合併により店舗の削減を行っており、現状の業界は縮小傾向に入ったと感じられる。単価の安い消耗品

も買わない傾向にある。【繊維製品および塗粧の製造・販売】
人材の確保(採用)が困難である。原材料(部品など)の高騰、入手性悪化。【業務用包装装置、自動車制御装置、ロボットシステム】
人材不足による育成の鈍化。とにかく人が来ない。【工業製品塗装】
人手不足(20代の若者の応募がない)【プラスチック加工業】
製造業は景気悪化が予測されるため、新規客先開拓が必要。【インサーキットテスト、インサーキットテストフィクスチャ、ファンクションテスト設計、製造、販売】
先行き不透明感が蔓延しており、大手から個人まで幅広く買い控えている。おそらくこのまま不景気へ突入すると思われる。輸出のみ好調。【食品加工機械製造販売】
前期同時期と比べ、月単位では半分の売り上げしかない月もあり、平均で7割くらいしかない。非常に不況を感じている。【プリント基板印刷業】
大手になればなるほど材料値上げが認めてもらえない。【段ボール製函、紙器一式、包装資材】
大幅な受注減少。【車両関係部品加工】
地域圏経済の停滞【商業デザイン】
中国、韓国との関係悪化により、客先からの受発注ストップがみられる。【金属塗装】
長年にわたって製造、販売、施工と行ってきたが、客先が設備投資をしなくなり、安価なものへと移行している。これをみても日本全体の景気は決して良くはないと思うし、今後もかなり不安。【空調設備】
電子部品の調達が不安定(特に輸入品)【電子機器製造業】
働き方改革により残業が制限され、急な大量受注等に対応することができず、受注量減少の大きな要因となっている。【板金、製缶】
働き方改革のおかげで休みが増え、有給も増え、残業が減り、売り上げ減少。最低賃金が上がり、パートさんの労働時間が短くなって効率が悪くなった。【金属部品の切削加工】
同業者の不況が多い。【機械部品】
得意先からの受注に社員総出で忙しく働いている割に少しも利益が上がらず毎月アップアップしている状態。不景気に困っている。【木枠梱包パレット製造、鉄製品製造】
日本、アジア、アメリカの景気の足踏み感。携帯電話機の国産品がなくなって、開発・販売の低下からくる関連業界の受発注の低下。【半導体産業向け自動機システム、航空機・人工衛星向け装置、自動車向け装置の製造販売】
日本経済の閉そく感。良い派遣社員の採用が難しい。【シール剤、接着剤、その他工業用化学製品の生産】
年明け以降受注が減少。米中関係の悪化が原因。【電気機械製造】
売り上げ減少【機械部品】
売上高は前期比減だが、円高による仕入れ価格の低下(若干)で利益水準は前期並となった。今後の為替と内需動向が気になるところ。【バルブ製造販売】
半導体市場の低迷はマイナス要因。オリンピック関連は好況。【無線通信機器開発製造、ビックデータ解析、半導体他装置組立、電気工事】
半導体需要の落ち込み。【プラスチックチューブの製造販売】
半導体部品、工作機部品の受注悪化。【機械部品、金型製造】
不況感が強い。【印刷業】
弊社の事業に明るい未来は感じているが、直近での不透明感が強いので楽観視はできない。【産業用ロボット制御盤設計・製作、PLCラダープログラム設計】
米中、日韓の貿易摩擦が経済に悪影響。【段ボール製品】
米中関係による近い将来の仕事量について(新規金型)【自動車部品、プレス金型製造】
米中貿易摩擦、日韓摩擦、消費税増税による悪化がひどい。【重機、バス、トラック等の金属加工】
米中貿易摩擦により顧客からの受注減【EMS(電子機器の受託生産サービス)】
米中貿易摩擦による世界的不況感。【板金、製缶】
米中貿易摩擦に起因する受注への影響あり【精密機器向けの板金加工業】
米中貿易摩擦の影響により設備投資が抑えられて受注が減少している。【電子部品製造販売】
貿易(外国企業素材輸入は拡大)【金属合紙の再生、リサイクル】
毎年の最低賃金の改訂、扶養控除の枠の見直しが行われないままでは何の改革にも繋がらない。零細企業の経営者は限界だと悲鳴を上げている。【弁当、惣菜】
明るい材料がない。【生産設備の設計製作】
労働時間短縮、休日の増加等は生産業にとって売り上げの減少、給与の残業賃金等の低下が起こります。

役所の入札制度は見直しをしてほしい。【印刷】

建設業
オリンピックに向けて材料が入らない。人手不足。【電気工事業】
オリンピック対策関連の受注が予想以上に遅れている。【電気通信設備の設計、施工、保守およびコンサルティング業務】
ここ数年来、建設作業員が絶対的に不足している。技能実習生を雇うにも先行投資が難しい。【建築塗装】
マンション購入者に中国人が増加している。【マンション建設】
一部材料(ボルト、H.T.B)の入荷待ちにて工事の遅れが目立った。【鉄骨建築業】
下期の予算取りの見積りが少ない。【管工事】
企業の設備投資の手控え、米中貿易戦争の影響。【土木・建築工事請負、不動産事業】
技術者の人不足【電気設備工事業】
技術者の不足【建築一式工事請負】
建設業界の人材の高齢化、不足。【土木工事業】
現時点では受注は増加傾向にある。現場要員の不足を感じている。【給排水衛生設備工事】
雇用困難。【機械器具設置工事業】
雇用状況【空調】
公共は悪くなる一方だが、民間発注(受注)は増加しています。【造園業】
公共事業の減少がある。【造園業】
公共事業の予算減少【土木工事業】
好景気感がありますが、実質伸び悩み。変わらず雇用は悪く、人材不足でも悩めます。【管工事業(設備工事、衛生器具等)】
工事の受注に関しては前期より感触は良い。【病院に特化した内装工事、クリニック開業支援、高度医療機器販売】
工事量の減少。受注単価の低下。【道路下水工事、舗装工事、住宅造成工事】
最低賃金の上昇改定の予定もあることから人件費の圧迫が予想される。【土木工事業】
材料代が高い。【防水工事】
仕事はありますが対応できず、全体として現状のまま【一般建設業】
仕事はあるのに人手がない。
仕事は順調だが、休日、時間が決まっていないので従業員が集まらない。【工場、テナントのパーティション工事】
仕事量が減っているように思う。今後もさらに減る。【タイル工事、タイル加工】
人材確保が難しい。【測量、大工工事業】
社員10人以下の小企業に入社を希望する若年層が著しく少ない。【給排水、衛生設備、空調、換気、電気設備、建築全般】
取引先で業績の良いところと悪いところの格差が大きくなった。注意しながら取引を展開している。【新築住宅、しるあり防除工事その他有害害虫駆除、カビ、消臭】
取引先の高齢化、減少。【左官、タイル工事】
受注の減少。特にマンション受注単価の低下。
受注減少【新築、リフォーム等】
受注単価の下落。施工現場減少(同業者が過剰にあるためたたき合い)負のスパイラル。【塗装、防水工事】
受注量は増加していますが、単価は上がっていない。仕入が上がっている。【電気設備工事請負】
従業員および下請け業者の不足。【造園業、土木業】
従業員の不足【解体工事、主に内装】
従業員の不足【建物解体】
従業員不足【機械器具設置業】
従業員不足【電気工事、電気通信工事】
消費者はネットで一番安い値段を見つけ値引き交渉するため苦戦しています。町田にビックカメラができ、リフォームもそちらに流れています。【給排水衛生設備、リフォーム業】
消費税アップの駆け込みなし。【住宅建設】

消費税は特に関係していないと思う。【外構、土木工事】
消費税増税により不況感がある。【外構、造成工事】
消費税増税の件【解体工事、外構工事、土木工事】
消費税増税後の景気が気になります。【外構工事】
新卒採用が厳しい。【空調設備工事】
新卒者の応募をしてもなかなかこない。(毎年)【土木、建築、とび、水道、解体、鋼構造物、橋梁】
人件費の増加。働き方改革とのアンバランス。【電気設備工事業】
人件費上昇。人手不足(若者)。従業員高齢化。【造園、土木工事業】
人材の不足【電気工事業】
設備改修計画の中止が出始めたため、来期が心配される。【管工事】
設備投資が少ない。【住宅、工場増設】
増税後の影響【外壁、屋根】
増税前の駆け込みで売り上げがあるだけ。10月以降の売上低下は確実である。【電気工事】
大型の工事を受注したため、資金繰りが厳しい。【建築、土木その他建設工事の請負、設計、管理】
発注はもらっているが、単価が落ちている。【ハウスメーカー建て方工事】
発注者の依頼、受注数は上がって、単価の値上げも理解してくれている。【解体および土木工事】
不況がいつまで続くか不安【庭園保守管理】
物件は都内が多く、現場に行く時間がかかる。市内の現場が増えれば楽になる。【特注家具設計、施工】
米中貿易摩擦が大きな影響。早期の解決策を望む。雇用不足で外国人採用中だが、審査が厳しく難しい。【建設業、木材販売】
慢性的な労働者不足(下請け工事事業者含む)【屋根、板金金属、防水、建築一式工事業(リフォームを含む)】
役所発注の仕事の減少が著しい。【道路、交通安全施設業】
来年のオリンピックの実感がゼロ。【店舗什器の組立施工、管理】

小売業・卸売業
2019 冬から 2020 春にかけて仕入単価の上昇＋消費税アップに伴う新価格を設定したいが、消費の冷え込みからどのように設定するかが悩みどころ。【学校用品小売販売】
7 月が好景気だったが、8 月の不振が大きい。【自動車買取販売】
IT 補助金による需要。PC、マイグレによる売上増。【OA 機器販売、IT ネットワークの営業、サービス】
アマゾン他通販の台頭が著しい。【玩具小売】
お客からのコストダウン要請が相変わらず続いており、収益率が低下している。【機械工具販売】
お客様が来ない。単価が低いほうを選ぶ。【印章販売、印刷】
お客様の来店少なく、単価が少ない。
キャッシュレスによる手数料負担。最低賃金の高騰。【菓子類販売】
ドラッグストアの安売りが響いています。年金の日は以前は少しは売れていましたが、最近は全く買わなくなりました。【化粧品販売】
トランプ政権のアメリカファースト、EU のゴタゴタ等で新規開発テーマなし。【光学レンズ輸出】
ネットショッピングの利用者増。キャッシュレスによるポイント還元や大手チェーン店によるポイント割引への移行。【化粧品販売】
ネット等による販売の影響を感じる。顧客の高齢化と若い人のお店離れへの対応。【時計・メガネ・宝飾他】
ユーザーの廃業が目立ち、また同業の飽和状態による営業合戦が過熱してしまっている。【自動車ガラス施工販売】
一般ユーザーの購入減少が卸業へ影響していると思われる。【宝石、アクセサリー輸入卸】
運送費の増加【安全靴、作業服、安全用品保護具販売】
円高、輸入国の規制、仕入れ上昇(燃料サーチャージ)【中古車輸出、輸入代行】
価格がシンプルで低価格な店舗の台頭と街の開業医(眼科)がメガネ屋化して高齢者は眼科先生の指導で提携業者に作らせるため、顧客が減っている。【メガネ、コンタクト、補聴器】
機械工場の不況と従業員のいない家族工場が多くなった。【作業着、作業用品】
業種の低迷が特にひどいので先を考えています。【物品販売】

駆け込み需要のためか、現在は好調。この先は不明。【靴小売業】
景気が悪い【食肉輸入卸】
景気感最悪。高齢化に伴い顧客の減少。【婦人服小売】
個人消費の低迷【食品販売】
個人店にお客が来ない。【酒類、食品等販売】
雇用状況【古物商】
国公立大学、研究機関よりの受注が特に減少している。理化学関係の国の予算が減少していると思われる。【空気圧機器製造卸売業】
最近の消費者状況。高齢化。エネルギー自由化。【LP ガス、灯油、リフォーム】
最低賃金の値上げなどは不況で苦しんでいる中小企業にとっては経費増で厳しくなる。消費活発に結びつくとは思えない。【新聞、雑誌販売(戸別配達)】
産地(特に千葉県)が台風により年末にかけて出荷量の減少が心配される。【切り花、園芸品の小売】
仕事着としてのスール離れ【スーツ、フォーマルスーツ、レディス商品の販売】
仕入先の支払いサイトが短いため、苦勞している。月末締め翌月 10 日払い。近年は取引先が個人客から企業になっているため、サイトが合わない。【家電品販売、防犯カメラ、LED 化工事、リフォーム工事】
自社商品は軽減税率が適用されるが、原価にかかる増税分を商品本体にどう転嫁していくか思案中。【菓子小売】
車に関しては次世代車の動きで変化。マイナスに動いている。【自動車部品卸売】
取り巻く社会福祉への対応【コンビニエンスストア】
従業員不足、労務費用上昇等による諸経費の増加。【電設資材全般卸売】
小売店は相当よくない。【酒、タバコ、食品、雑貨】
消費の状態は悪くなっています。消費税が 10% になったらますます不況になるのではないかと不安。【鉢花、花苗、肥料、用土、農薬】
消費の二極化。収入格差の拡大。【総合スーパー】
消費者の高齢化と減少。【乾物食品、結納品、軽飲食販売】
消費者は価額の安いものを選択する。生鮮食品は買い置きができないので消費税アップの影響は受けにくい(軽減税率の適用を受ける)が、果実等のぜいたく品の売り上げは落ちると見込んでいる。【生鮮食品卸売】
消費税 10% の対応策のカード支払いの導入は、その後の維持費を考えると小さい店では対応できない。【パン製造販売】
消費税の軽減税率がわかりにくい。【食肉の卸売】
消費税の増税に伴う軽減税率の対応【地方卸売市場(青果)の運営】
消費税増税の影響【紙巻たばこの輸入並び卸売】
消費税増税の不安。人件費上昇。【インテリア商品、カーテン、じゅうたん】
消費税増税後とオリンピック後の景気の動向【文具・事務用品販売】
消費税増税後の 10 月以降が心配【ガソリンスタンド】
消費税増税後の店頭販売の対応。(クレジットカード、電子マネー)【文具・事務用品販売】
消費税増税前だが新車売上、新車販売台数等微増に推移している。思ったほど景況感は高くない。【自動車販売、整備】
消費税増税直前ということが関係しているかわからないが、買い方が細くなっているような気がする。【コンビニエンスストア】
人手不足。【ペット用品】
世界情勢不安定からの原材料等の高騰による商品の値上げなどにより今後の心配が増加するのと消費税増税後の買い控えが心配。【寝具販売】
世間の景気の動きとはあまり関係なく動いています。【輸入時計塔販売、他社ホームページ、ネットショップ制作、管理】
税金の値上げ【酒、タバコ、食品】
増税の特需はまだありませんが、月末や来月が不安です。【医薬品、化粧品、日用品、食品】
増税等での消費減、先行き不安での買い控えによる売り上げ減。人件費増加による経営悪化。【スーパーマーケット】
断捨離、終活等世の中の流れで購買意欲が低下しているうえ、増税、年金の目減り等先行き不安から消費者の買い控えが甚だしい。【寝具類、パジャマ等雑貨】

地域の販売はますます苦しくなり、商店街は消滅の危機にあります。価格競争には疲れています。【電化製品販売および取付工事等】
中途採用者の質の低下【介護用食品の開発、販売(トロミ調整食品)】
通信販売による影響が大きくマイナス。【スポーツ用品】
通信販売による売り上げ不振。【販売、修理】
天候不順による仕入価格の上昇。【生花】
東京ガスや電力に切り替えされる。【LP ガス販売】
働き方改革に対しての対応の仕方【電気設備機器の販売】
同業の減少による受注の増加がみられる。【寝具製品、婦人衣料、インテリア】
特にコンビニの進出による悪化。キャッシュレスによる対応が難しい。【パン製造販売】
特に若年層の茶道文化離れを感じる。【茶の湯道具の販売】
買い控え【鮮魚】
売上は好調ですが人手不足【住宅設備機器】
半導体業界の低迷が響いているが、2020 年にかけて期待が持てる一面もある。【工業用ゴム・樹脂製品】
販売先の減少【アイスクリーム卸売業】
販売先業者の元請材料支給が多くなってきたので受注状況が悪化して大変困っています。現状新規開拓も難しい状況です。【建築、建設、外構資材販売】
不況感と消費増税に伴う買い控え。【金物、雑貨】
物を買わなくなっている。人手不足。【古紙回収、販売】
米中関係他世界的状況から消費購買力低下が心配【メガネ、コンタクト、補聴器】
輸出(中国)が最悪【古紙卸売】
来年度は法人から個人事業へと変更予定。【工場内消耗品卸売業】
老後 2000 万円問題。【肉販売】

飲食業・サービス業
10 月から消費税増税のため、単価を上げる予定。そのため、利益の予測ができない。
10 月より実施の消費税増税の動向に注視したい。【鶏肉専門(焼き鳥、から揚げのみ)】
10 月以降の消費税率アップにより収益率悪化の可能性大。【財務会計諸表の作成およびその付帯業務】
2020 年のオリンピックなどに向けた動きは都心以外では全く感じられない。不況感はないが最低賃金上昇や消費増税などで結局マイナスになっている。
20 代、30 代の若年層を求人するも応募者がなく、不足解消できない。【大型エンジンの点検、修理】
7 月以降景気悪化(仕事量減少)【産業廃棄物リサイクル業】
E コマースの先行きが不透明【ラストワンマイル事業(個別宅配)】
お客様が高齢なため、来店頻度が少なくなり、不安【美容業】
お客様の高齢化と周りの過疎化でお客様が減少。【理容業】
レンタカー部門は、気候による変動が大きく、梅雨、台風の影響を受け、夏の最大需要期にかかわらず低迷した。【レンタカー、カーリース】
伊勢丹の閉店を控え、相模大野周辺の人の流れの悪化。不動産取引への動きの鈍化が顕著(特に高額物件)【不動産仲介業】
引きこもりの増加がみられる。【コンピュータ技術教育、デジタルコンテンツ作成・販売、】
営業努力で売り上げは伸びていますが、全体的な景気はやや悪くなっている。【司法書士業】
円高【金融業】
家賃の不払い、遅れがひどい。空き室が多くなかなか入居者がみつからない。【店舗、アパートの賃貸】
介護業においての人材不足。【介護施設】
介護保険の報酬低下が死活問題ラインまで来ている。【高齢者福祉業、通所介護】
割と安定した業界と感じる。【コンピュータソフトウェア開発】
客種の高齢化による消費の減退。安い店に向かう。【理容業】
客先減少による売り上げ不振。資金繰りの悪化。【イベント業】
休日等が増えたとその日の分の売り上げがなくなり、売上と利益が減少するが給与は減らすことができず、

その分は会社が役員が負担している。零細企業にとって相当厳しい。大企業、中小企業と同じくくりにされて大変困っている。【鍵、錠】
業界全般的にドライバー不足。【一般貨物運送事業】
業者からの修理が減った。しかも内容が悪い。【自動車板金、塗装、車検】
景気がどんどん悪くなる一方、税金、その他の出費は増え、経営は難しくなる一方である。【】
景気が悪くとも頑張ればどうにかなっている。欲をかかず、年中無休で働いている。【理容業】
景気が悪くなっている。【税理士業】
景気が悪すぎる。【酒、野菜、肉】
景気の低迷、顧客の高齢化に伴い、解約顧客の増加。【清掃業、家事代行業、清掃用具のレンタルと販売】
景気の変動は今のところ感じられない。【訪問介護サービス】
景気は決して良くない。あまりお金を使いたがらない。【中華料理】
景気は決して良くない。先細りと思います。【損害保険、生命保険】
景気感、消費税増税【餃子専門店】
景気感はじわじわと不況となる感触がする。【測量、登記】
景気感はやや良好か横ばいと発表されてはいるが、どこかに偏っている感じがする。【不動産賃借】
建設業の小規模事業者の売り上げが減少。【会計および税務申告業務】
建物維持管理の需要は多いが雇用不足と原価の上昇により受注が難しい状況。【建築物清掃業】
個人消費の動向に不透明感がある。【不動産賃貸業】
個人消費金額が少なくなった。回転率の低下。【美容技術一般】
固定客の減少。
雇用状況、景況感【旅客運送業】
雇用状況について職員の新規採用が厳しい状況にある。【障害者福祉サービス事業】
雇用状況は悪い。【非破壊検査業務】
顧問先の人手不足。【社会保険労務士】
公共物件の減少。【測量業】
公民間を通して消費税 10%に値上がりする前の駆け込み受注もないことは、先行き景気が良くなるとは思えない。【建築設計・監理・積算、建物等移転補償コンサルタント】
行政の硬直化【生ジュース】
購買意欲低迷【リノベーション住宅、建売住宅】
高齢者が増加しているので、それに伴い売り上げが増えている。【訪問介護事業】
今後の雇用や景気に不安感【屋外広告(看板)】
最近の住宅購入者が年収 500 万～600 万くらいの購入者が少ないため、3000 万くらいの新築住宅が売れない。
最低賃金上がるのに、受注単価が変わらなかったり、下がるものもあります。【梱包、封入】
最低賃金の引上げ【人材派遣、職業紹介】
最低賃金の上昇、人材不足【総合ビルメンテナンス業】
最低賃金の上昇、増税で改めて効率よく売り上げを上げなければならないと思う。【特殊美容、まつげエクステンション、心理カウンセリング、特殊ヘア】
最低賃金の上昇。【ビルメンテナンス業】
最低賃金上昇の転嫁ができないことによる収益圧迫【ビルメンテナンス業】
採用コスト上昇【訪問介護事業】
仕事があっても人手不足のため受けれない。【ソフトウェア開発】
仕入単価の上昇【貸植木業】
市場が低迷している。来年はもっと悪い予感。【売買】
紙媒体減少、WEB 媒体若干上昇【総合広告代理店】
事業規模を問わず経営に余裕がなくなる傾向にあり、受注に結び付きにくい。【経営労務コンサルタント】
自動車メーカーの売上低下による業務受注量の減少。【自動車のサイマル・金型・NC データおよび部品の設計、製造、3D リバースエンジニアリング】
実費の支払いが悪化。【医療系】
社員の少ない企業に働き方改革とか年休 5 日とか残業減少は疑問。【自動車部品】

若い人材が欲しい。【地質・地盤調査】
若い人材の不足。【消防設備点検、工事】
若手のアルバイトスタッフを採用としてもなかなか応募が集まらない状況。【観光案内、観光情報発信】
主要顧客である製造業各社において、電機、半導体分野に弱含みを感じる。また、働き方改革による残業抑制や有給取得の影響で工数の減少が顕著。さらに採用市場の競争激化の影響もあり、新卒、中途共に採用に苦戦している。【人材派遣業】
取引数の低迷【不動産売買】
取引先の高齢化。後継者不足。【税理士業】
取引先の不動産屋がこれからどうなっていくのか不安。先が読めず。【ビル、ハウスクリーニング】
受注減【ビル設備のメンテナンス、リニューアル】
受注先の減少【鍼灸マッサージ業】
受注先担当者の高齢化および開発意欲の低下。【ソフトウェア受託開発】
従業員の権利の過多(労働者の法律)によって会社がつぶれる。【自動車整備】
従業員の不足、働き方改革による賃金の上昇で収益率の低下が見込まれるが、運賃の上昇が追い付いてこない。【商業貨物配送】
諸経費増加。回収困難。
商店街の衰退【洋食(ハンバーグ、スパゲッティ)】
消費税の影響について【保証業務】
消費減少【居酒屋】
消費者が支出をおさえている。【不動産管理(マンション、アパート)】
消費者の購買意欲の低下【売買、仲介】
消費者の財布のひもが固い。【公共測量、民間測量】
消費税、人手不足【食品、雑貨】
消費税に対する不安。【保険代理店】
消費税の影響により消費低迷するのではと不安。【居酒屋】
消費税の改訂が複雑すぎて当面わかりにくい。【不動産の売買、仲介、分譲、管理、営繕、保険】
消費税の税率の負担。【税金関係】
消費税引き上げへの不安。【空圧機械の整備】
消費税増税【飲食店】
消費税増税【焼鳥、焼肉】
消費税増税による景気の悪化。仕入金額の増加。【不動産管理業】
消費税増税による消費減【居酒屋】
消費税増税予告による消費が起きず、消費者の出費抑制による内需減少が加速。不況の手前の状況です。【不動産売買販売、不動産媒介およびコンサルティング】
消費税導入に伴う影響。原材料仕入単価の上昇。売り上げの低下。受注の減少。個人消費の低迷。【石物特殊清掃】
消費税率引き上げによる景気減速【仲介(売買、賃貸)、賃貸管理】
上期に比べ需要が減少している。【ソフトウェア開発】
新規園を立ち上げ、夏以降予測どおり。【保育園】
神奈川県最低賃金が高いと感じます。仕事慣れしてできる人にはいくらでも払いたいが、高校生で初のアルバイトでも最低賃金を払わなければならないと思うと負担が大きいです。【焼肉、韓国料理】
親会社のIT化(工場)や海外子会社支援のための人材不足。【システム運用、システム開発】
人が不足して困る。【理・美容業】
人員の不足【行政書士、社会保険労務士業】
人員を募集してもなかなか増えない。よって営業日の減少となり、売上も下がる。【ラーメン店】
人件費の急激なアップ、増税、仕入れ単価の上昇、先行き不安しかない。【焼肉、鉄板レストラン】
人件費の上昇【税理士業】
人口の減少【税理士業】
人口減少の影響あり。
人材育成が難しい。最低賃金上がりすぎ。【ビル管理業】

人材不足【ソフトウェア開発】
人材不足がいたるところで見受けられる。
人材不足のため新規サービスの受け入れができない。【訪問介護事業、居宅介護支援】
人財の不足。(財産といえる人が少ない)【介護事業所、生活介護(障害)】
人手が足りない。募集しても応募がない状況です。【税理士業】
人手不足(ドライバー、庫内作業員)【総合物流業】
人手不足、人材難、人材の質の低下(モチベーションを含む)【物流倉庫】
人手不足。ヘルパーが足りない。【訪問介護事業】
人手不足。高齢化による消費の低下。【ラーメン店】
人手不足。働き方改革に伴う労働環境整備の諸問題。【接骨院】
人手不足【引越業】
人手不足【鋼材】
人手不足でよい人がこない。【社会保険労務士】
人手不足による店舗の運営管理の低下による売り上げの低迷。今後、この人手の問題と最低賃金の上昇がさらに業績の悪化を招く。生産性の向上と利益構造改革が待たなしの状況。【一般食堂】
人手不足の感は相変わらずある。働き方改革は実情に合っていない部分が多々あり、経営が厳しくなると思われる。【警備業】
設備(車輛)価格上昇、燃料費上昇【一般貨物運送】
先行きが見えない。【景品買取業】
宣伝力【カフェ】
全体的に来店客数は少なくなっている気がします。【寿司屋】
増税にかかる利益低下【マンション管理人請負業務派遣】
増税の心理的影響による生活全般の不安をかかえているのを感じる。【進学サポート、学習サポート、子育てサポート】
増税後の売り上げ反動減【SC 運営管理】
増税前で個人消費を控えている様子。【中華料理】
他社での雇用状況【旅客運送事業】
大型店の撤退に伴い顧客の減少【貸しビル】
大型連休前後の余波【食事処、出前】
大手からの発注が遅れる傾向がある。【受注ソフトウェア開発】
短納期の傾向【取扱説明書、マニュアル】
男性従業員の不足【税務申告、会計業務】
中小企業の法人に対する担保融資が極端に減少している。【司法書士業】
賃金上がるのは構わないが、受注額がそれについていけない。(民間、公共含めて)【建築物清掃業】
低料金で夜遅くまで営業するお店が増えているので、痛手を感じる。【一般理美容関係、その他化粧品類の販売】
低料金のチェーン店が増。個人店の高齢化と技術者不足。【理容師】
東京オリンピック、5G ネットワーク、リニア工事等で事業機会はある。【機械技術、品質保証、労働安全のコンサルタント】
働き方改革によって時間制限があり、社員のやる気減また高速代の分、売上不況。有給休暇の強制、社会保険の強制による雇用が難しい。
働き方改革による影響は大きい。人員が不足しているのに権利主張が先行し、大変厳しくなっている。【自動車部品、雑貨】
忍び寄る不況感【税理士業】
年収が上がらないため、自由診療での受診を控えている。【カイロプラティック】
燃料の高騰【貸切バス】
売上の内 7 割が夕方以降の売り上げとなっているが、夜の部の売り上げが低下しつつある。客足が切れるのが早くなっている。【ラーメン専門店】
売上は順調に増えているが、荷主の動向に不安があります。【一般貨物運送事業、部品等の輸送】
売上客単価が上がらない。【ネイルサービス】
売上増および採算の増【自家用電気工作物】

販売単価の著しい下落。人手不足。【産業廃棄物処理業】
不況感【宿泊業】
不況感【生保代理業】
不景気【建設・土木資材運搬】
不動産価格はやや上昇気味。売買単価（地価、建築費）は上昇または高止まり。【不動産コンサルタント、事業用地、マンション用地の仲介】
不動産購入者が減少している感じがする。【開発土地分譲、建売住宅、土地建物仲介管理】
物量の減少【鋼材、LP ガス】
米国と中国の貿易戦争が続く間は悪い。【金属リサイクル業、産業廃棄物収集運搬業】
米中貿易摩擦や韓国と日本の関係が現在ビジネスをしている企業に影響しており、当社の悪い風が多少降りかかっている。【組込ハードウェア、ソフトウェア開発】
米中貿易摩擦を元とした影響が大きく反映されている。【金融業】
保険加入者の高齢化【保険業】
法人から個人への組織変更が目立つ。あるいは廃業。【税理士業】
問題は特に入札競争下での受注単価の居下落に尽きる。【ビル清掃整備管理業務】
薬屋フード等の値上げ。フードはネット上で購入できるものもあり、売上の減少。【犬猫の診察】
来季賃料値下げ要請があるも今期はほとんど横ばい。【貸しビル業】
来客者が高齢の方が多い。【リサイクル、金券類売買】
来店サイクルが伸びて高齢者が店離れしている。【美容業】
例年、夏休みはお客が減るが、今年はあまり減らなかった。【カフェ】
労働者数の絶対的不足。【工場構内作業請負】